

里山学院統括施設長 鍵山 雅夫

後援会の皆様には、大変お世話になっています。今日まで後援会からは、車両・AED等の寄付をいただき、施設内外にとって貴重な品を揃えることができました。元々は鈴鹿市に施設を建設する為の支援者募集から始まった会ですが、おかげさまで施設整備も順調に終わり、県担当官からの推薦施設として、三重県知事・厚労省大臣・外国の教授等々に来ていただきました。ただ我々は、中身への期待度も大きい事を認識し、社会的養護の施設としての役割を果たせるように、より一層の努力が必要だと思っています。若手の職員がベテランに負けじと奮闘し、頑張っている事をこの場をお借りしてご報告申し上げます。又是非多くの会員様に施設に来ていただき、職員・子どもと会っていただく事をお願いし、皆様のご健勝を祈念申し上げます。又次回も良い報告ができるように、職員一同頑張ります。



里山学院院長 奥 昭徳

今年度4月からお世話になっています「奥」です。どうかよろしくお願ひします。

里山学院でお世話になる前は、他の児童養護施設でお世話になっていました。私は以前児童相談所で勤務をしていた頃、安東理事長様に大変お世話になりました。児童養護施設についての学習を始め、職員研修等々で見聞を広めさせていただきましたことが、今の私にとって大きな財産となっています。

現在の社会情勢下では「社会的養護児童の増加」により、各施設では「小規模化」施設へと様変わりをしています。子供たちの生活状況も大きく変わってきています。

子供たちが自らの自立に向け、社会の荒波に立ち向かった時、里山学院で体得したいろいろな経験を基に、社会人として大きく羽ばたいていただけることを祈念し支援に一生懸命取り組みたいと思っています。

今後ともよろしくお願ひします。

里山学院 後援会会長 森下 眞治

地域に開かれた里山学院

地域に「開かれた」とは、どんな状態でしょうか？また、そのことで後援会はどんな事ができるのでしょうか？また、地域の範囲はどこまで？と。

まず、学院のある影重地区が一番大切です。次に、小学校のある校区の一色。中別保、中学校区の河芸町となると思います。

影重地区は、長年の付き合いで、敷居も低く、毎年の里



山祭の様子にみられるように、区を挙げて区長さん、老人会、PTA等や一般の人々一人ひとりに至るまで協力的です。十分に開かれています。小学校区、中学校区になると、やや疎遠かなと思います。開かれたという事は、一方通行ではなくて、相互乗り入れで互いの信頼が生まれると思います。

里山学院後援会 幹事 村主 堯春

ひらかれた里山学院へ

難しいテーマをいただいた。「ひらかれた」は「開かれた？」「拓かれた？」「啓かれた？」等など、考えていてもしょうがない。

視点を変えて、里山学院の地元の人達は、学院のことをどのようにとらえているのだろうか？地元のあらゆる層の人達が学院の子どもたちのこと、職員のことを。なんかそこにヒントがありそうな…。

毎年、学院で開催されている里山祭や七夕などに来てくださる地域の人達の意識を知ることや、比較的自由な時間のあるシニア世代の人達に準備段階から参加してもらったり、日常的に昔の遊び(お手玉や水鉄砲などの作り方も含めて)を教えてもらったりする中で、自然に「ひらかれる」。お互いが楽しむ事から始めたら？



いきる力を育てる『食育』

今年度、力を入れている取り組みとして、食育活動があります。児童養護施設で生活する子どもたちの入所理由や抱えている問題は複雑で多様であるため、施設の生活が安全で安心できる場であると感じられる日常生活の中での食事は、健康なカラダ作りにつながります。

皆でおいしく、楽しく食事をする経験を繰り返し、それを習慣化することで心身の発達や人間関係の構築にもつながります。実際に、食育活動をきっかけに、積極的に参加する子どもが増えてきており、食事の場での話題としてコミュニケーション方法のひとつともなっています。

また、日常の生活を通して、食事のマナーや食文化、さらには調理や栄養面の知識などを、子どもに伝えるとともに入所する子どもが心身共に健康な生活を送れるように、支援していくことが大切であると考えます。

一般家庭より児童養護施設で生活している子ども達は、日々提供される料理は専用に調理室で調理しているため、料理している姿を見ることが少なく、毎日食事が出てくるのが当たり前と錯覚してしまいがちになる一面もあります。その中で、調理している姿を見せることや、自分で作り、食し、片付けを行う事で、食への関心が高まるとともに、感謝の気持ちが芽生え、育ち、将来的に自立した際、豊かな食生活を送ることが出来るようになることを目指し、継続して活動していきます。



新任職員挨拶(河芸・乳児院・鈴鹿里山)

◆河芸里山学院 村田 莉穂



働き始めてから、3ヶ月が経ちました。初めはわからない事ばかりで、毎日があっという間でしたが、少しずつ先輩職員の方の動きや、周りの状況を見て、動けるようになってきたように思います。以前より子どもに携わる仕事に就きたいと考え、大学で児童養護施設の存在を知り、夢であったこの仕事に就く事が出来ました。子ども達はとても可愛く、日々一緒に玩具で遊んだり、外で動かしたりして過ごし、子どもの成長を毎日実感する充実した日々を送らせていただいています。私の担当させているユニットは、幼い子どももいるので、食事補助やトイレ指導など、今まで経験した事がない事が多く、先輩職員の子どもの関わり方を見て、学ばせていただいています。まだまだわからないことばかりで奮闘する日々ですが、子ども達に寄り添う事を大切に、これからも頑張っていきます。

◆里山学院乳児院 池田 千紘

施設での仕事は大変ですが、日々先輩職員方の姿を見たり、アドバイスを頂いたりして、自分の学びとしています。子ども達との信頼関係の構築は、想像していた以上に難しく悩んでいました。その時に「子ども達は普段の自分の姿を見ているから、そこから信頼関係は少しずつ築かれていくんだよ。」とアドバイスを頂いた事がありました。その日から、その言葉を意識しながら、自分に出来る事を一生懸命行い、子ども達と接しています。今では、子ども達が笑顔で接してくれる事に一番のやりがいを感じています。これからも、子ども達の事を第一に考え、日々精進していきます。



◆鈴鹿里山学院 水谷 朱音



鈴鹿里山学院の職員になり3ヶ月が経ちました。緊張も少しずつ解け始め、毎日楽しく過ごしています。私は製作が得意なので毎月季節に合わせた壁面を作っています。ユニットの子どもたちは楽しみにしてくれていて、子どもと一緒に作っています。後日自分で作ったのを追加して貼ってあったりして、とてもやり甲斐を感じています。これからも初心・笑顔・元気を忘れずに、子どもたちと一緒に成長して過ごしていきたいです。

笹に願いを

妹と弟がいい子に育ちますように。

小学3年生 女子

あたまが、かしこくなりたい。

小学2年生 男子

毎日みんなが笑顔でいられますように

高校2年生 女子

里山のみんなが
日々元気でありますように。

高校2年生 女子

人の役に立てる人になれますように。

小学5年生 女子

夏までに3キロやせる。

中学3年生 女子

将来おすし屋さんになりたいです。

小学4年生 男子

将来、助産師になれますように。

小学5年生 女子

将来お金持ちになれますように。

小学2年生 男子

けいさつかんになりたい。

小学1年生 男子